

システナ健保だより

2026.1
No.127



新年のご挨拶

理事長 森下 緑

あけましておめでとうございます。

被保険者ならびに「家族のみなさまにおかれましては、清々しい新年を迎えたことをお慶び申し上げます。また、日頃より当健康保険組合の事業運営につきまして多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて健康保険組合全体の財政においては、非常に厳しい状況が続いております。少子高齢化が進む我が国では、昨年2025年に団塊の世代がすべて75歳以上となりました。2040年にかけてさらに高齢者人口が増え続けることが予想され、健保組合の支出の4割を占める高齢者医療拠出金は今後も増え続けることが見込まれています。

こうしたなか健康保険組合連合会は、「ボスト2025」新提言をまとめました。国民のみなさまに向けて、「制度への理解」「自分の健康を自分で守る意識」「セルフメデイケーションの心がけ」の『3つのお願ひ』

を提示しています。一方、健康保険組合としては「健診を受診しやすいような働きかけ」「丁寧な保健指導」「健康づくりに役立つ情報発信」「職場環境に応じた予防・健康づくりへの取り組み」の『4つの約束』を掲げています。当健康保険組合といたしましても、これらの提言に沿って事業を進めつつ、現役世代の負担軽減、国民皆保険制度の維持に向けて国に対しても働きかけてまいります。

国は、社会保障制度を将来にわたって持続可能な制度とし健康予防の促進と質の高い医療提供を実現するために、医療DXを進めています。昨年12月には従来の健康保険証は使用できなくなり、マイナ保険証を基本とした仕組みに移行しました。システム健康保険組合でもマイナ保険証の利用を積極的に進めます。現在資格確認書をお持ちの加入者の方にも、マイナ保険証を利用していただくよう強くお願ひいたします。

また2026年4月からは、子ども・子育て世帯を社会全体で支える新たな「子ども・子育て支援金」が導入されます。事業主・加入者のみなさまにはご理解、ご協力ををお願い申し上げます。

結びに、みなさまの本年の健康とご多幸を心よりご祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。

